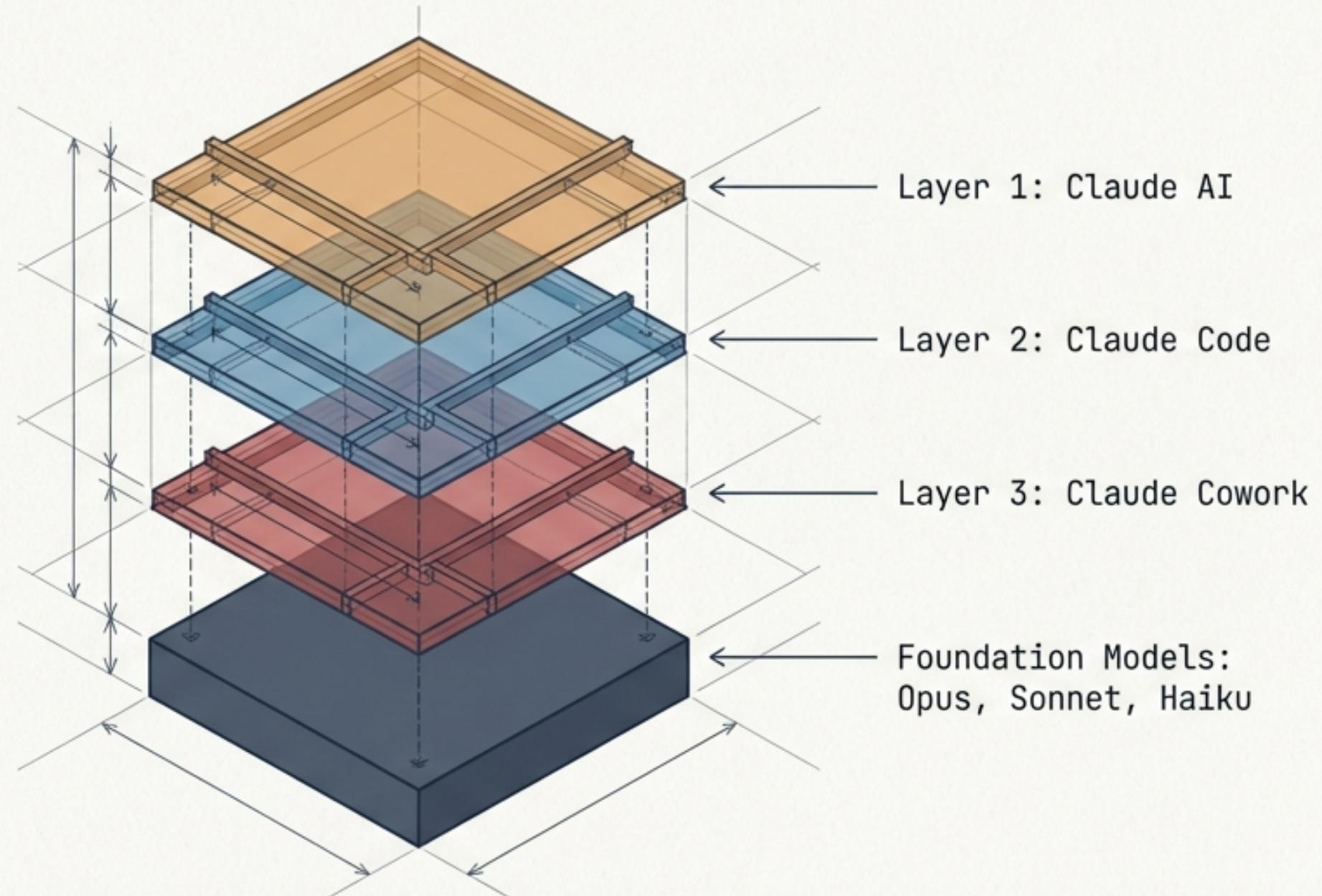


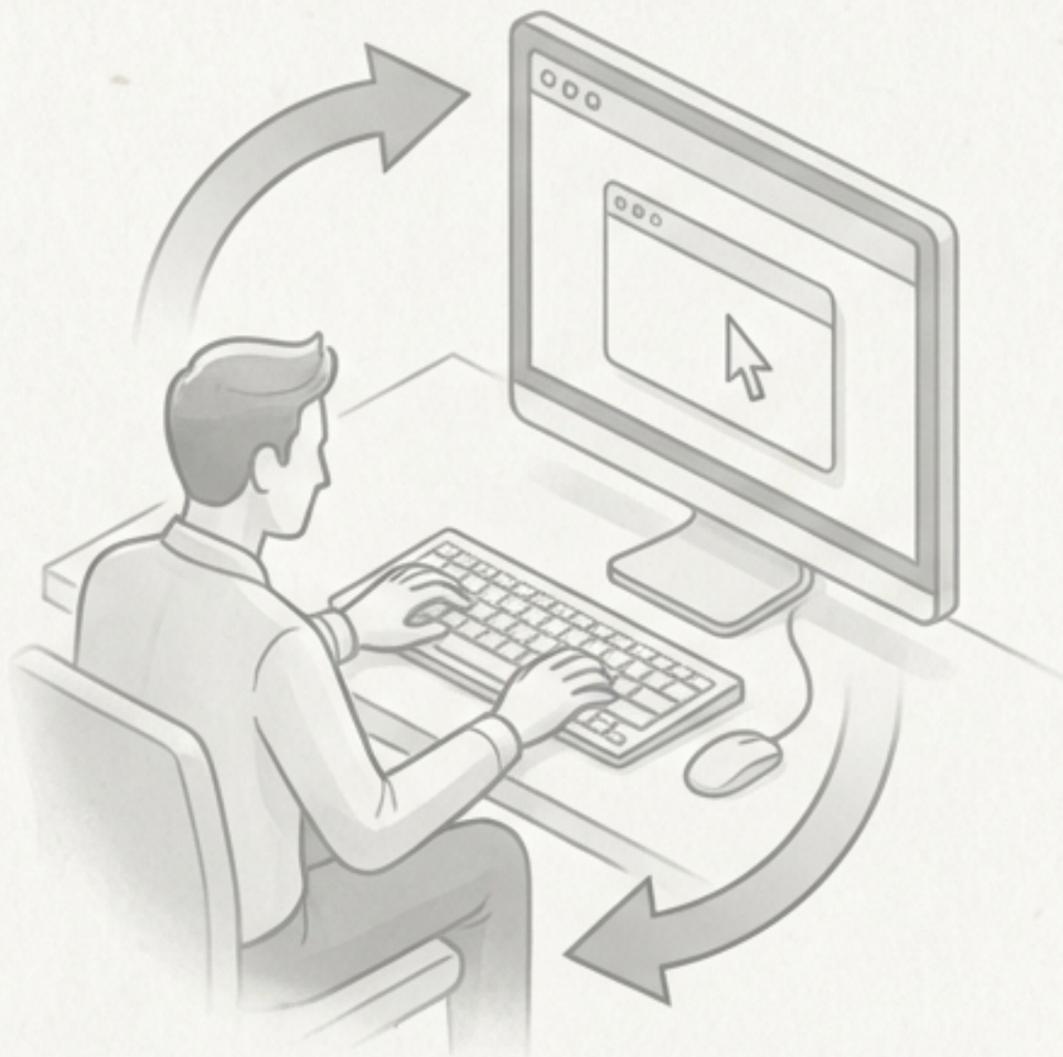
# 2026年 Anthropic AIエコシステム分析：実装と最適化の戦略的ブループリント

Claude, Code, Coworkのアーキテクチャ特性と組織導入の最適解



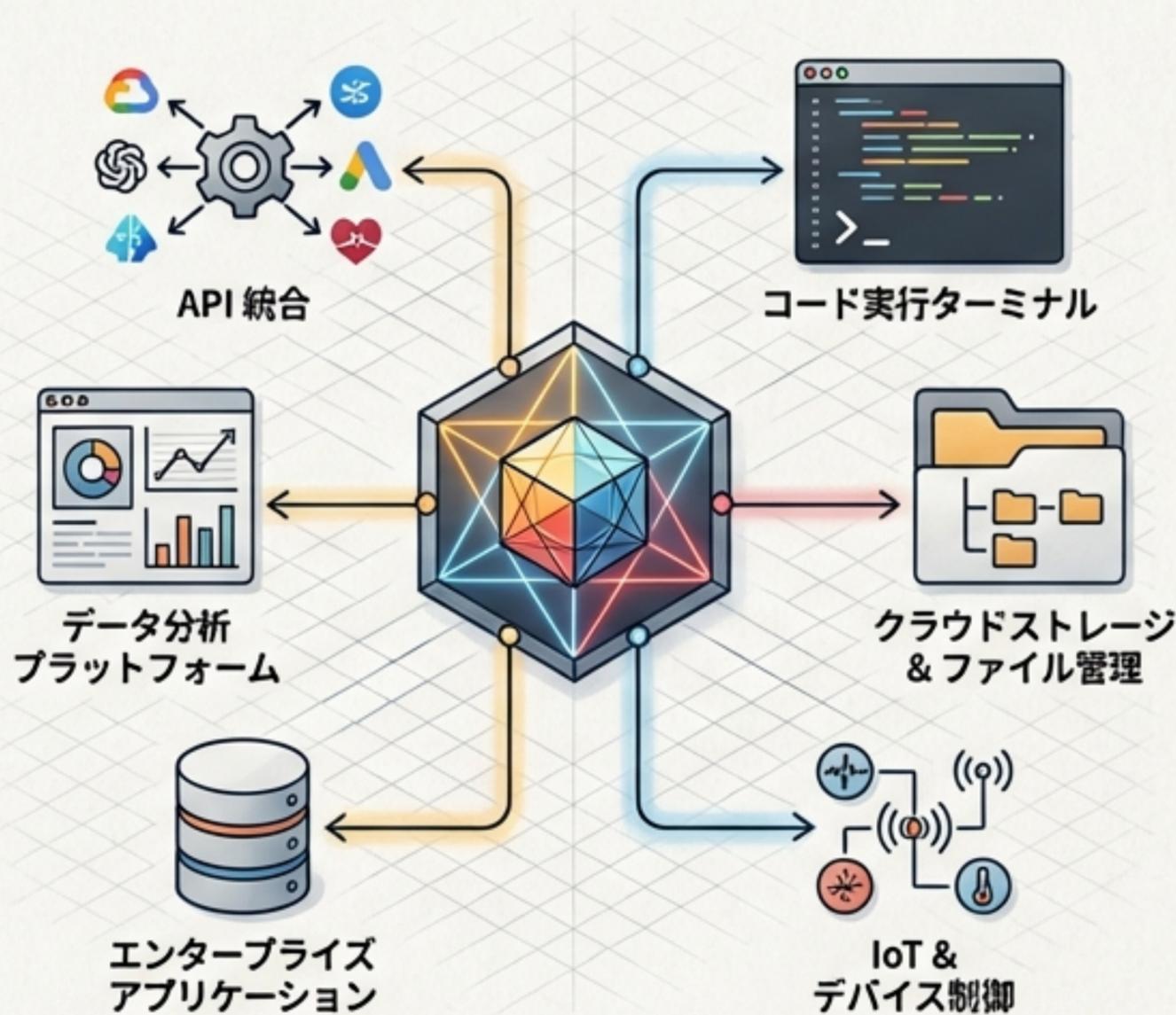
# 2026年のAIパラダイムは「実証実験」から「本番環境での自律実行」へ完全移行した

## ブラウザベースの対話



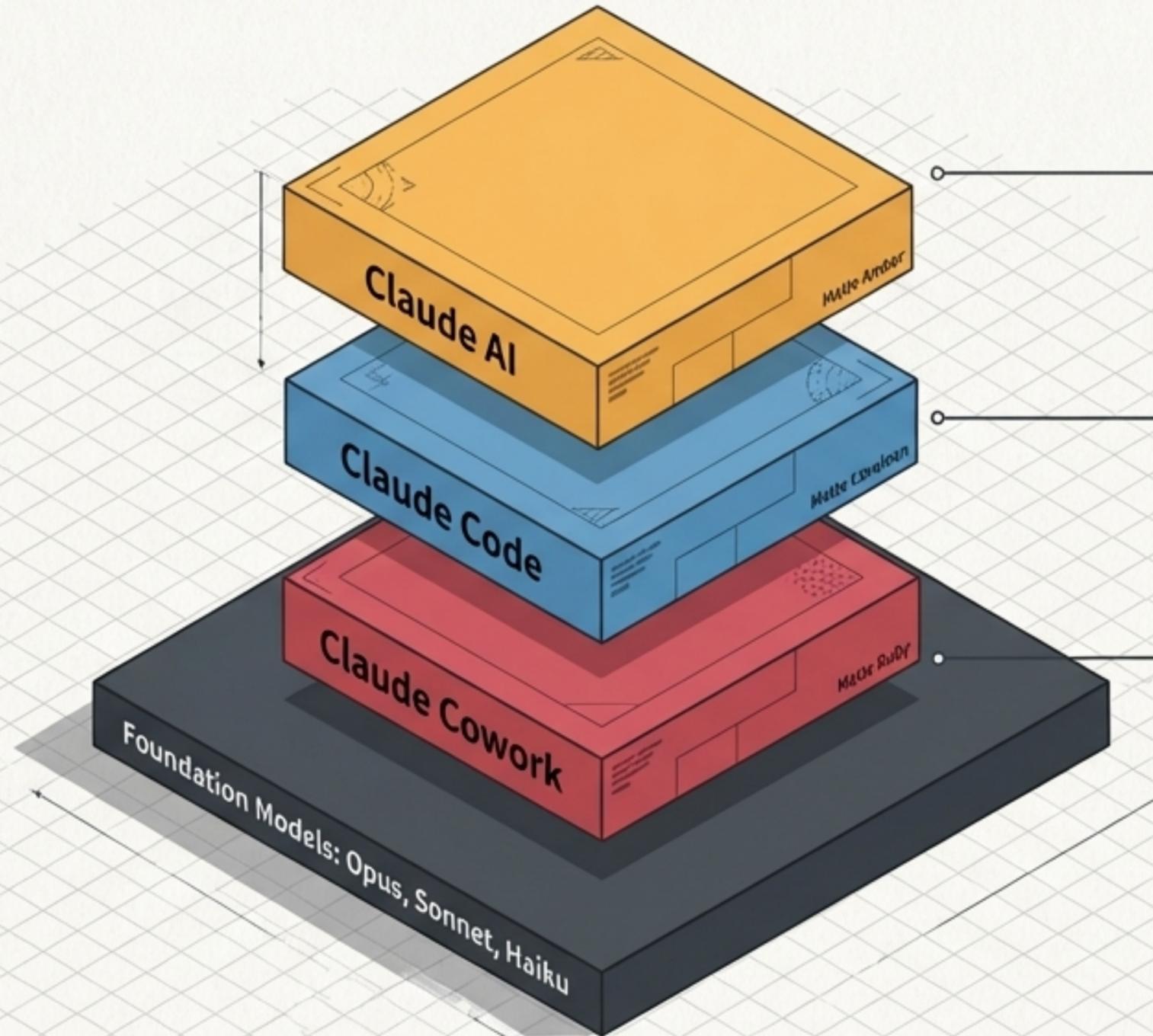
人間による手動プロンプトと、  
単一機能SaaSの使い分け。

## 汎用エージェントによるSaaSの代替



AIは単なる「対話相手」から、人間のワークフロー内で  
自律的にタスクを完遂する「実行エンジン」へ。

# ユーザー体験と実行権限を再定義する3つのAIレイヤー



## 思考と対話の基盤 (Thought & Chat)

Web/Mobile Interface, ゼロセットアップ

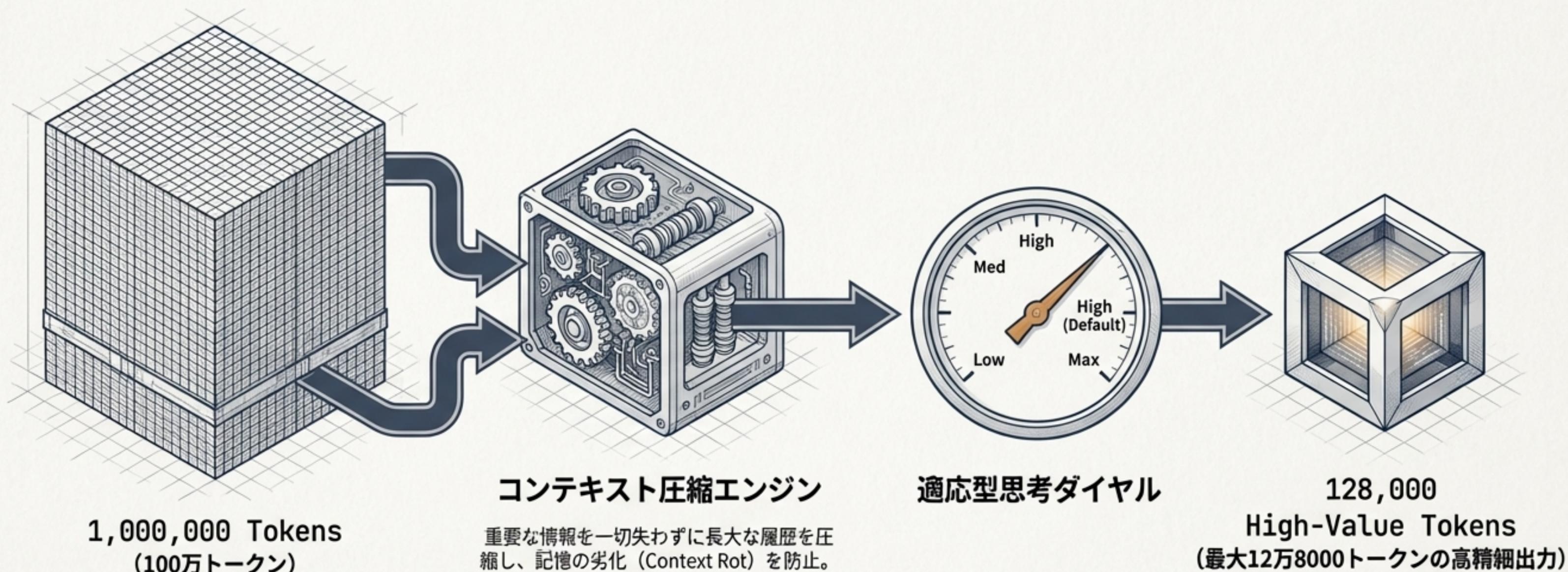
## 開発者向け自律実行 (Developer CLI)

ターミナル直結, ファイルシステムへの直接アクセス

## 非エンジニア向け自動化 (Desktop GUI)

Claude Desktop, バックグラウンドでの自律オーケストレーション

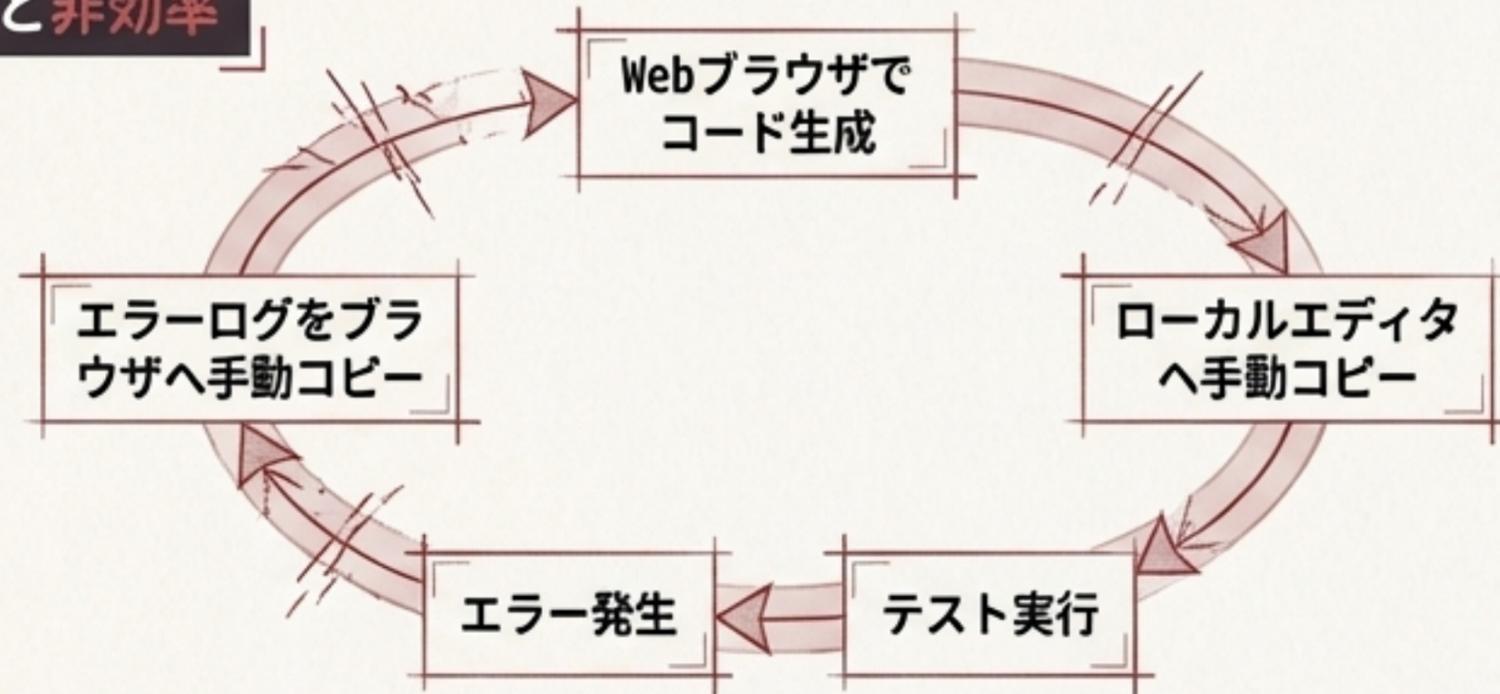
# 思考のための絶対的空間：Claude Opus 4.6と長文脈処理の内部メカニズム



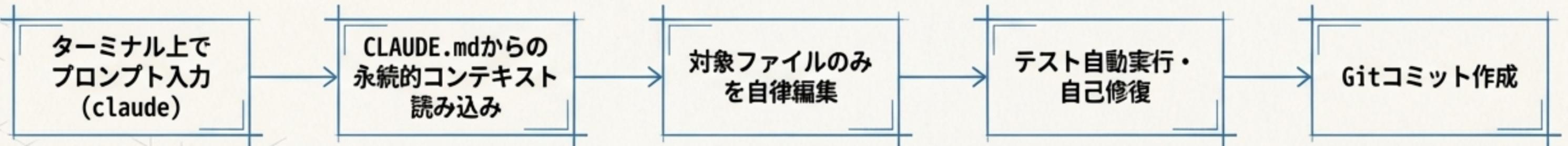
「完全広告排除」の設計思想。サードパーティの干渉を受けない、機密性の高いビジネス戦略や複雑な推論に最適なクリーン環境。ARC AGIテストスコア: 68.8%達成。

# コピー&ペーストの終焉：ターミナル直結型「Claude Code」による自律的パイプライン

## 激しいコンテキストの断絶と非効率



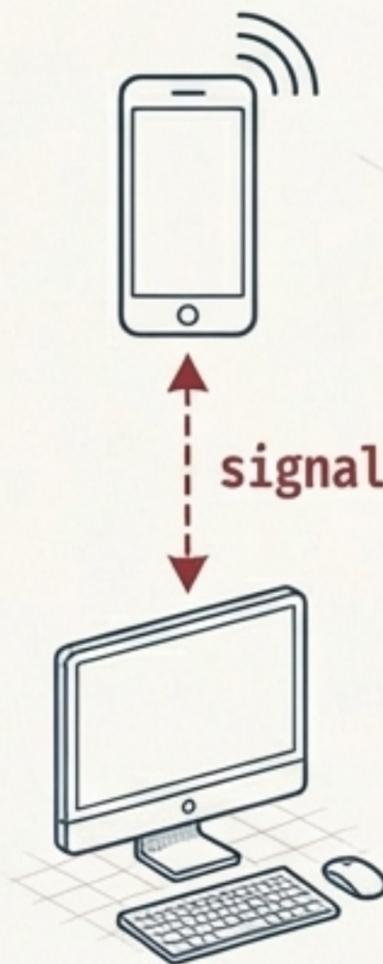
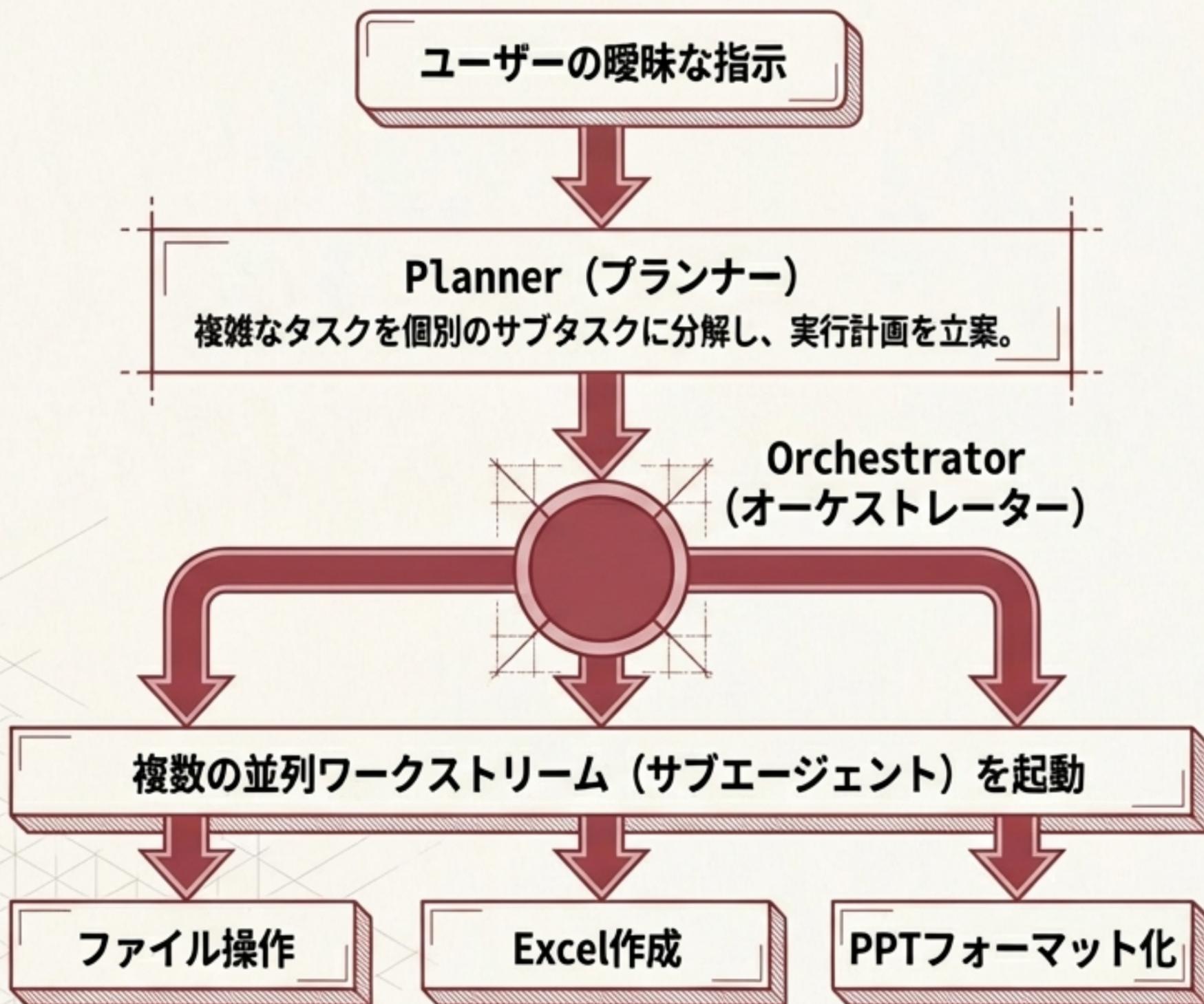
## ローカル環境での一気通貫したオーケストレーション



### インサイト

高速・軽量なSonnetモデルをデフォルト採用。  
リアルタイムでファイル操作プロセスを監視でき、誤ったアプローチは即座に強制停止・軌道修正が可能。

# デスクトップの完全自動化：ナレッジワーカーを指揮官に変える「Claude Cowork」



## Dispatch (ディスパッチ)

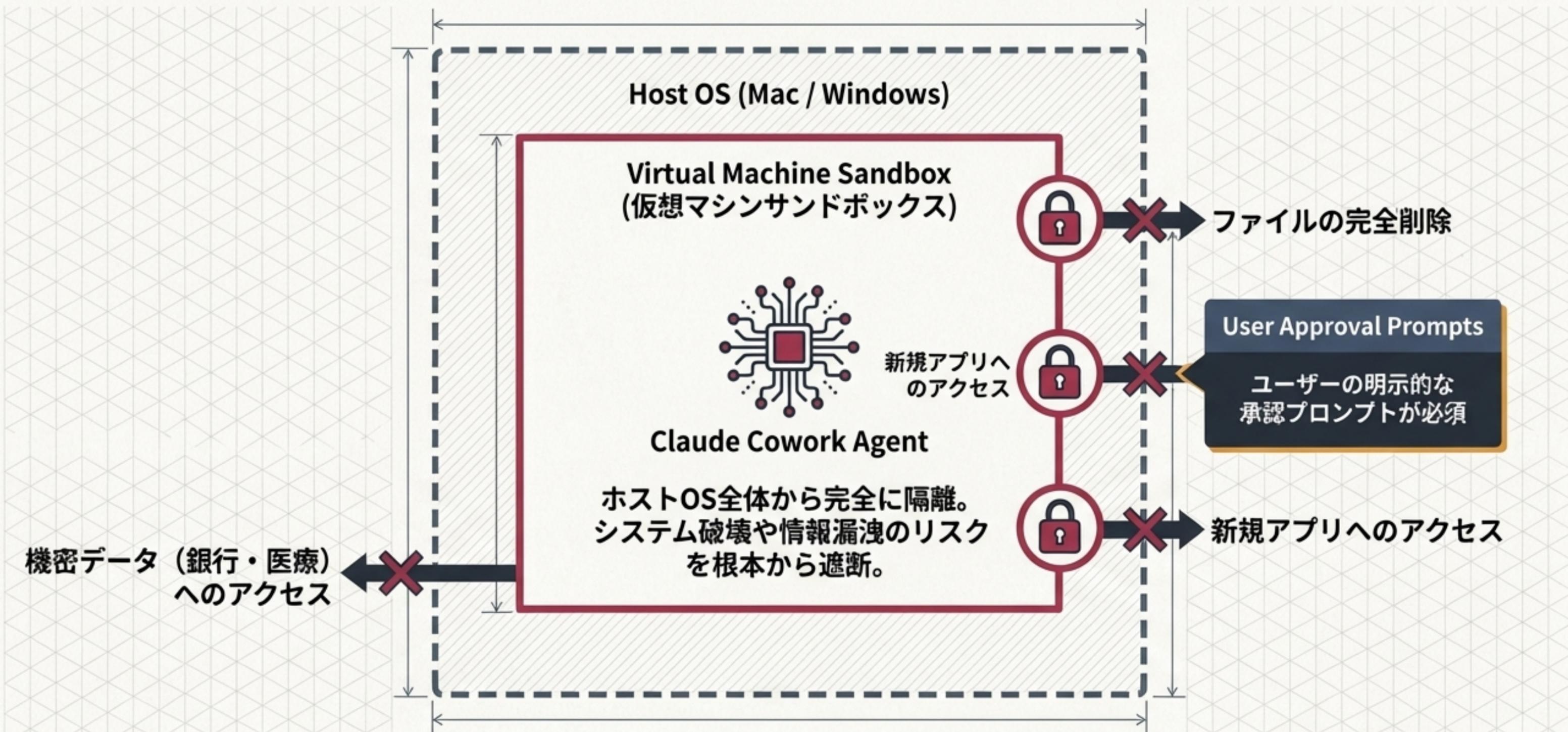
移動中や会議中にスマホから指示を送信。暗号化ペアリングによりローカルPC上でCoworkが起動し、自律処理を開始。



## Scheduled Tasks (スケジュールタスク)

反復的なデスクトップ作業（データ収集、要約など）を毎日・毎週の指定時間に自動実行。PCスリープ復帰時のフェイルセーフ機構を搭載。

# Coworkのセキュリティモデル：VMサンドボックスと明示的ガードレール



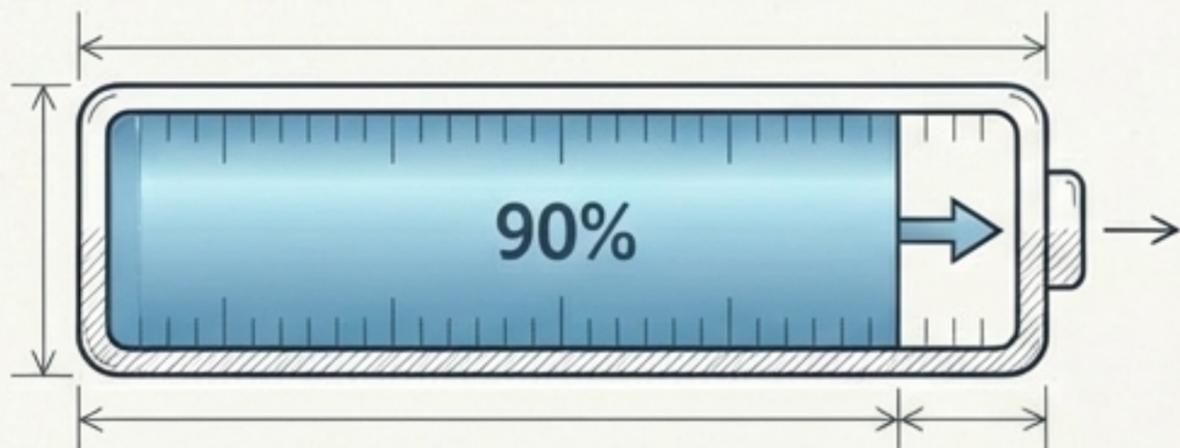
エージェントの自律性とエンタープライズ基準のリスク軽減を両立する堅牢なアーキテクチャ。

# 3大ソリューションの比較・診断マトリクス： どのタスクにどのレイヤーを適用すべきか

Noto Sans JP	Claude AI	Claude Code	Claude Cowork
Target User (対象ユーザー)	全社員・経営層	ソフトウェアエンジニア・ データサイエンティスト	ナレッジワーカー・ オペレーション担当者
Interface (インターフェース)	Web / Mobile	Terminal / CLI	Desktop GUI (Claude Desktop)
Token Efficiency (トークン効率)	中 (反復的なコンテキスト 送信)	極めて高い (テキストベ ース、特定ファイルのみ抽出)	低い (画像解析・スクリー ンショット撮影による消費)
Execution Depth (実行の深さ)	思考・推論・文書生成	インフラ操作・コードベ ースの自律編集・CI/CD連携	アプリ横断データ入力・フ ァイル整理・長時間バッ クグラウンド処理

# 隠れたトレードオフ：自律処理におけるトークン消費構造とストール（停止）リスク

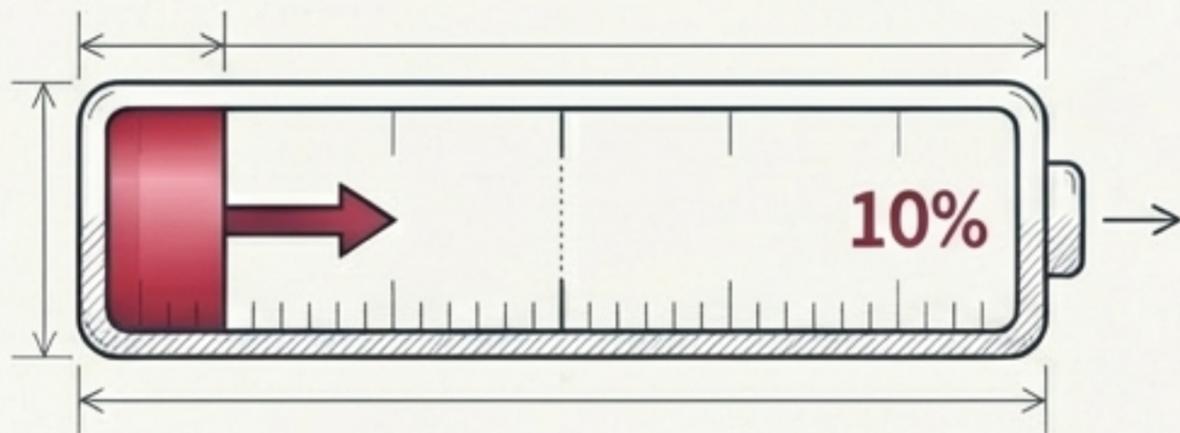
## Resource Burn Rate



### Claude Code - High Efficiency (Matte Cerulean)

- 📦 Mechanism: テキストベースの解析。プロジェクト全体を把握しつつ、必要なファイルのみを直接指定して読み書き。
- 📦 Result: 高いトークン効率。大規模リファクタリングでも安定稼働。

## Resource Burn Rate



### Claude Cowork - Low Efficiency (Matte Ruby)

- 📦 Mechanism: バックグラウンドでの頻繁なスクリーンショット撮影とGUI画像解析 (Image Processing)。
- 📦 Result: 膨大なトークンを急激に消費。長大なマルチステップ処理ではクォータ到達による「ストール（停止）リスク」を孕む。

リソース集約的な長時間タスクにおいて、無計画にCoworkを稼働させると業務が突如停止する。処理の特性に応じたツールの使い分けが必須。

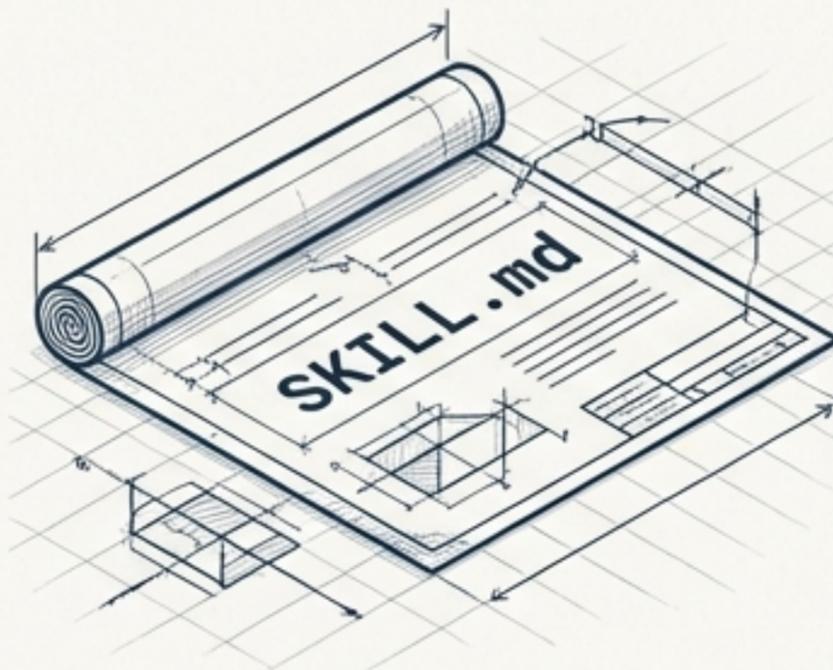
# エコシステムを拡張する2つのメカニズム：「MCP」と「Skills」の相乗効果



## MCP (Model Context Protocol)

ツールとデータへの「接続 (Access)」。  
ファイアウォール内のデータや外部SaaSへOAuth  
経由で安全にアクセスする業界標準プロトコル。

+



## Skills

ワークフローの「手順的知識 (Procedural  
Knowledge)」。特定のタスクをどう実行すべきか、  
社内規定やフォーマットを厳密に定義した指示書。

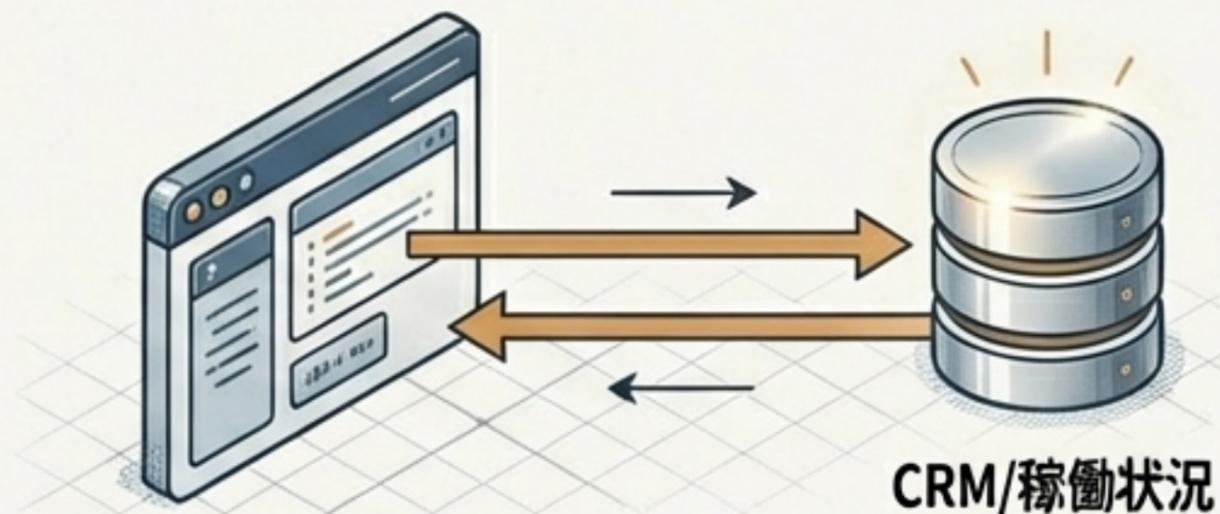
=



MCPが外部データを引き出し、Skillsがその処理手順を指揮する。  
この2つの統合が、人間の介入を排除した「究極の自律ワークフロー」を実現する。

# エンタープライズ知識基盤の構築：RAGとMCPのアーキテクチャ分離

## MCP (オンデマンド・ツール呼び出し)



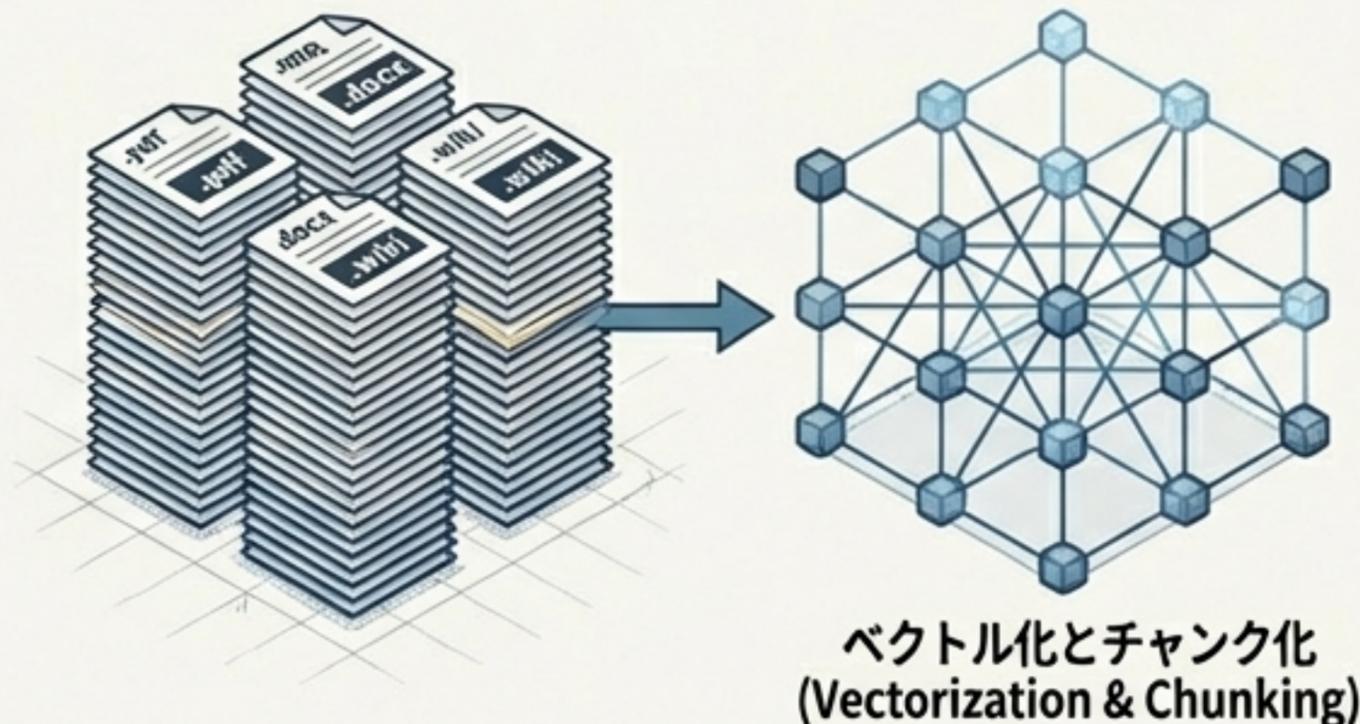
### Use Case:

「今日の最新売上データを取得して」

### Mechanism:

クエリ発生時に都度外部システムを検索・取得する。動的で変動の激しいリアルタイムデータ（CRM、稼働状況）に最適。

## RAG via Claude Projects



### Use Case:

「過去10年間の10-K（年次報告書）群から市場動向を分析して」

### Mechanism:

ドキュメントをチャンク化しベクトル化。「情報の墓場」と化した膨大な社内Wikiや静的ファイルを、数百万トークン規模で高速推論する専門家（Expert）へと変換。

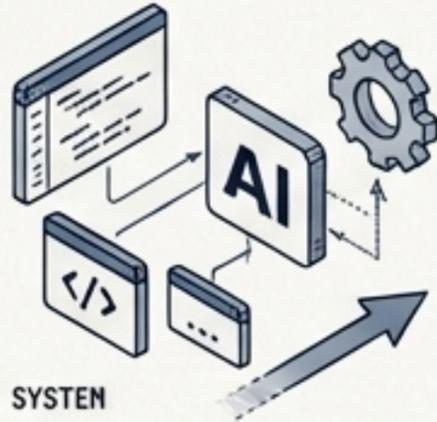
# 劇的な生産性向上を証明するエンタープライズROI（投資対効果）

Spotify (Code)

## 90% 削減

移行（マイグレーション）作業時間

数千のサービスにまたがるコードベース移行にシステムを統合。現在、全アップデートの約半数（月間650件以上）がAI支援システムを経由して本番環境へデプロイ。



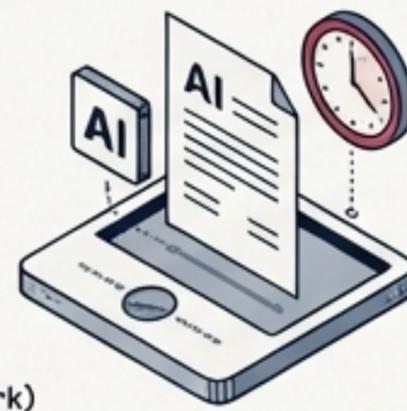
METRIC: REDUCTION  
NETR: JetBrains Mono  
PLATFORM: AI-ASSISTED SYSTEM

Novo Nordisk (Cowork)

## 10分へ短縮

規制当局向け文書作成（従来は10週間）

Cowork基盤の「NovoScribe」を構築。分子生物学のディレクターが自然言語のみでプロトタイピングし、検証作業リソースを95%削減。



METRIC: TIME SAVINGS  
NETR: JetBrains Mono  
TOOL: NovoScribe (Cowork)

North Highland (Claude AI)

## 数分へ短縮

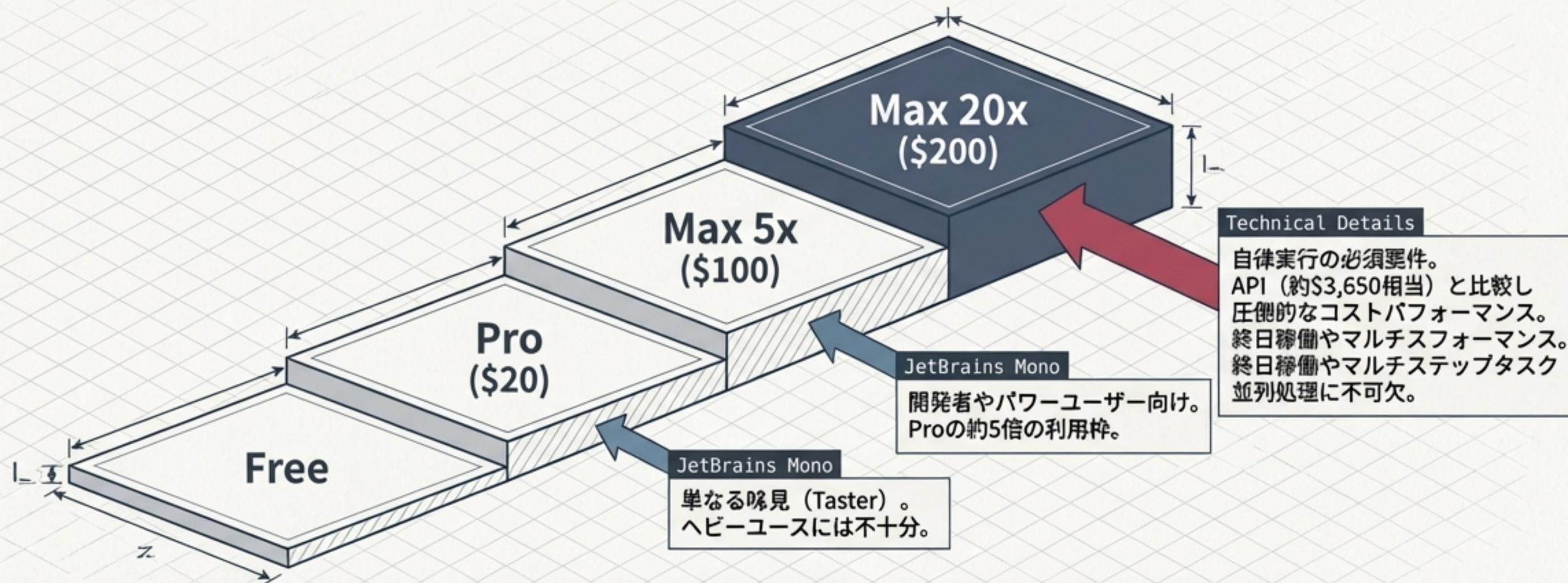
複雑な10-K分析と提案書作成（従来は数週間）

ProjectsとRAGアーキテクチャを活用し、静的な財務ドキュメント群を動的な推論エンジンへと昇華。



METRIC: ANALYSIS SPEED  
NETR: JetBrains Mono  
TECH: RAG Architecture, Claude Projects

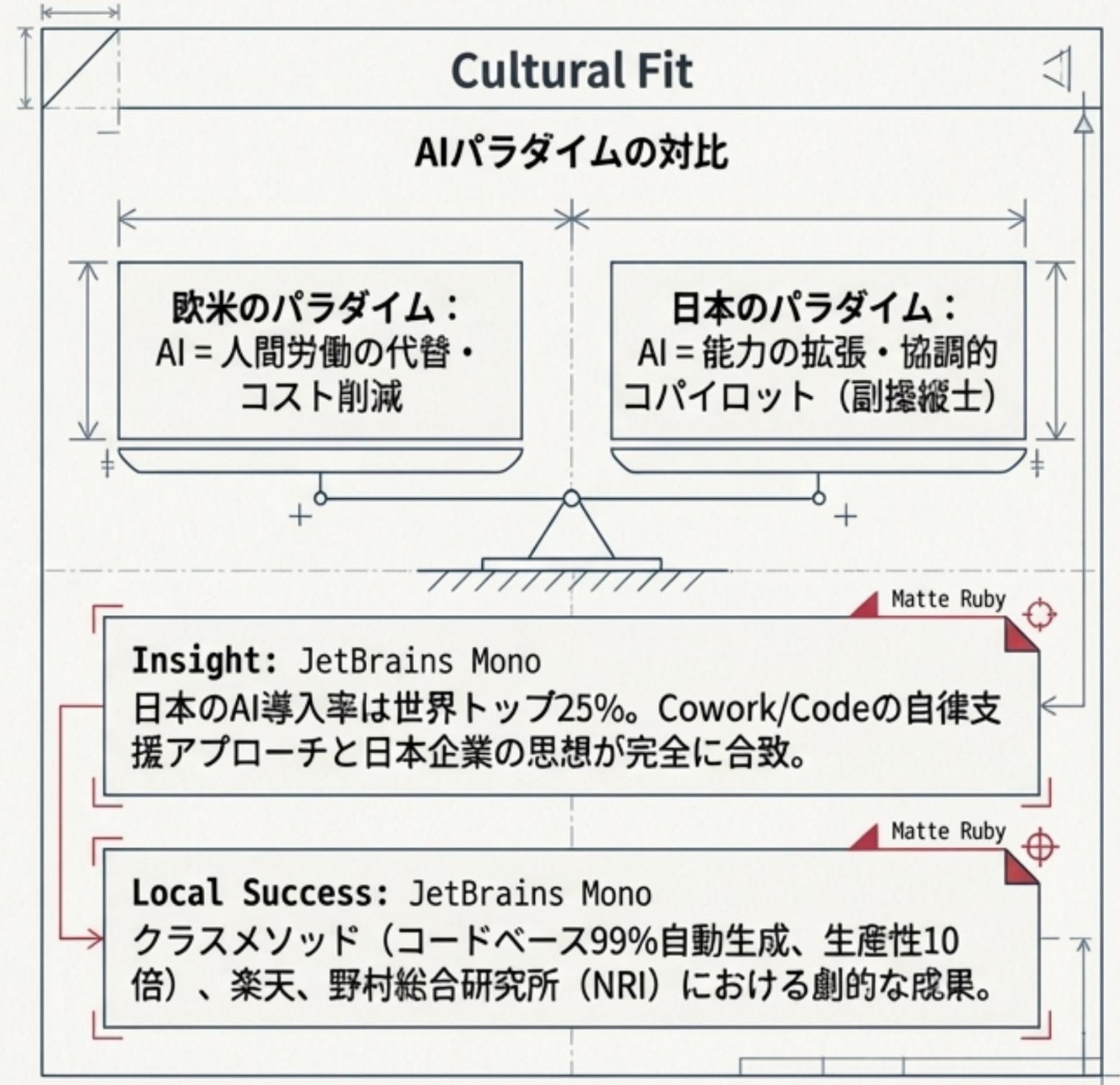
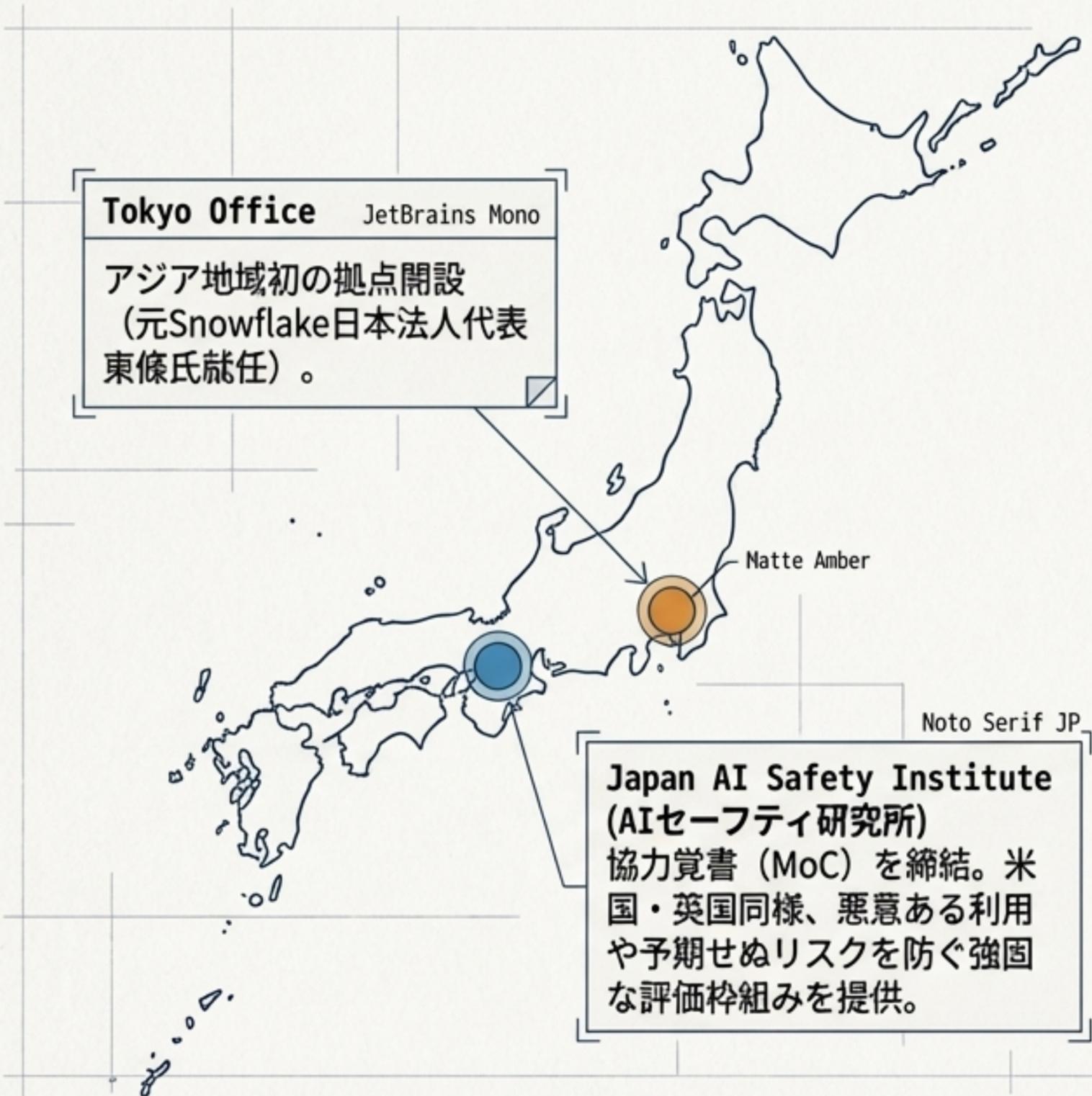
# トークンプラン戦略とコンプライアンス上の留意点



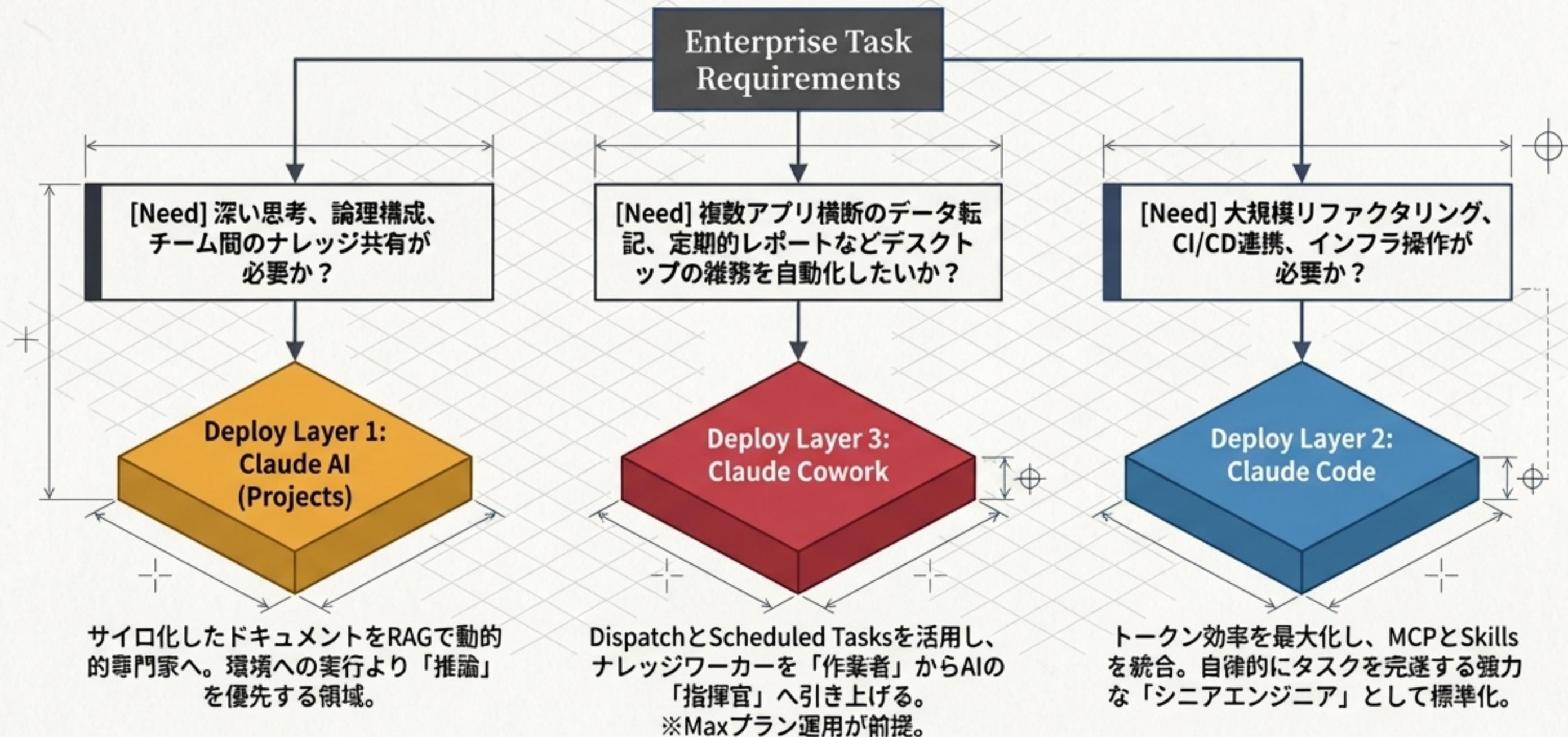
## [COMPLIANCE ALERT - Cowork導入の留意点]

- 1. 2026年現在、Claude Coworkは「研究プレビュー (Research Preview)」段階。
- 2. データはローカルPCのみに保存され、監査ログ (Audit Logs) やコンプライアンスAPIの対象外。中央集権的な監査・削除が不可。
- 3. 金融機関や医療機関など、法規制で厳格な監査証跡が求められるワークロード (Regulated Workloads) での利用は推奨されない。

# 日本市場におけるAI受容性とローカライゼーション戦略



# 結論：タスク特性に基づくAIレイヤーの最適配置



2026年以降の圧倒的な競争優位性は、単一のAIツールを導入することではなく、この3層構造を実務レベルで統合し、人間とAIがシームレスに協働する次世代アーキテクチャを完成させた組織にのみ帰属する。